## 新体制発足後、初の理事会を開催

# 人材育成のための学習会の名称も決定 2019年の全国研究集会は茨城県で

夏の定例理事会を８月26、27日の両日、京都社会福祉会館で開催しました。会議には20人の理事全員と髙見国生顧問、濱田昭監事が出席。早川一光顧問も奥様、息子さんらと一緒に元気なお顔を見せてくださいました。また、理事会にあわせ、「本人・若年支援」「国際交流」「介護保険・社会保障」「調査・研究」の各専門委員会も開催しました。

はじめにADI国際会議の理事会としての振り返りを行い、今後の国際交流のあり方や国内の当事者・支援者団体の連携の進め方について協議しました。次に、７月から始まった財政検討会議の中間報告、「家族の会」の会員を増やすための呼びかけ文の検討を行いました。また、今後の会活動を担う人材を育てる学習会と基金の名称の検討をし、『「認知症の人と家族の会」の理念と未来を考える学習会』、『「認知症の人と家族の会」未来へつなぐ基金』と決まりました。

調査・研究専門委員会では、倫理委員会の設置や自動車運転に関する調査などの準備を進めていくこと、介護保険・社会保障専門委員会では、支部から求めのあった第７期介護保険事業計画への基本的な

考え方や自治体への発信の仕方について検討しました。その他、ホームページのリニューアルや杉山孝博Dr.研修講座の学生割引導入、12月に開催予定の「本人（若年）のつどいを考え、広める研修会」についても確認しました。

全国研究集会について、大下直樹理事から11月に開催される徳島の準備状況について報告がありました。続いて、山田留美子理事から2018年に福井県で開催される全国研究集会のテーマが提案され承認されました。2019年の開催地については茨城県支部から申請を出すと決めたことを宮原節子理事が報告しました。

世界アルツハイマーデーに寄せて、厚生労働大臣からメッセージが届きましたので紹介します。

## 2017年度「世界アルツハイマーデー」に寄せて

厚生労働大臣　加藤　勝信

2017年度「世界アルツハイマーデー」に当たり、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

世界アルツハイマーデーは本年で24年目を迎えます。この間、我が国でも「公益社団法人認知症の人と家族の会」が中心となり、認知症に対する理解の向上等の活動が広がってまいりました。結成以来長きにわたり会を支えた髙見前代表理事、本年６月に新しく就任された鈴木代表理事をはじめ、関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

また、本年４月には、「認知症の人と家族の会」のご尽力により、日本で２回目の開催となる第32回国際アルツハイマー病協会国際会議が京都で開催されました。多数の国内外からの参加者を迎え、多くの認知症当事者の方自身による世界へのメッセージの発信により、認知症への理解が深まったことは大変意義深いと考えております。

我が国では、2015年に認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を策定し、認知症の方にやさしい地域づくりを進めてまいりました。

また、本年５月の介護保険法の改正では、新オレンジプランの基本的な考え方を法律上にも位置づけました。

新オレンジプランを契機に新たな取組を開始した自治体も多く、認知症の方とそのご家族を支援する地域資源は着実に増加しています。本年７月には、2020年度末までの新たな目標設定を行い、プランを着実・効果的に施策を実行していくことを関係省庁で確認しました。

認知症の方とそのご家族が認知症とともによりよく生きていける環境づくりには、認知症の方とそのご家族の声をしっかりと聞いて取り組んでいくことが重要です。「認知症の人と家族の会」の皆さまには今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この世界アルツハイマーデーを通じて、さらに認知症への理解が進み、認知症の方にやさしい地域づくりが進んでいくことを祈念しております。

最後に、認知症の方とその家族の皆様のご多幸と、関係団体の皆様のますますのご発展を祈念して、私のお祝いの言葉といたします。

本人登場
私らしく仲間とともに
No.144

講演会で発表する岩田さん

# 岩田　由利子さん
55歳・広島県支部

2016年12月号にも登場いただいた岩田さんが、今年６月、広島県支部主催の講演会で「当事者からのメッセージ」として、発表されましたので、その内容を紹介します。

（編集委員　松本律子）

## それは、何気ない日常の中で…

いつものように会社に出かけようとしたら、鍵がない‼なぜかすぐに、近くの内科を受診しました。その後、いくつかの病院を経て、うつ病、双極性障害から、前頭側頭型認知症と診断されたのです。告知はなく、ゆっくりと進行するとのことでしたが、記憶障害が確実に。ある時、後で食べようと楽しみにしていたプリンがない！娘から「お母さんが食べたじゃない」と言われ、でも、思い出せない。残念で、残念で…残念な気持ちが残りました。

## 「家族の会」につながる

53歳ごろ、友人に相談したところ、保健所経由で認知症地域支援推進員、ケアマネ、「家族の会」、デイサービスとつながりました。自分の世界が広がり、感謝しています。この時、要介護１になりました。

会場控室でご主人と並んで

今年3月、丹野智文さんの講演にも参加するなど、いろいろなことを知る機会もできました。その時、電車に乗ったとたん、フッとどこに行くのかわからなくなり、初めての経験で、自分でも驚きました。

## 認知症の人=何もできない人ではありません

今、私は日常の身支度とか薬とか、手順が難しくなり、何から手を付けたらいいかパニックになります。そんな時、「ワー‼」と声を出すと落ち着きます。夫が声をかけてくれたり、チェックリストを作って、助けてくれています。

このような初期の自覚がある間は、「本人は何もできない、家族に質問する」という古いスタイルはやめてください。本人に聞いて、本人の言葉をもとに治療してください。普通に話せて、自分で考えることもできます。

## 広く社会にお願いします

認知症の啓発活動をしてください。私たち本人の声を、学校教育に取り入れてください。また、認知症の本人が活躍できる機会、人生経験を生かす場、働き続けられる支援、障害年金の増額、認知症の人に役立つ発明品を作ってください。患者に寄り添った医療・介護、関係機関の連携、行政の支援など、一層の努力を望みます。

（広島県支部会報の講演会報告記事より抜粋）

## 情報コーナー　本人交流の場
（詳細は各支部まで）

**宮城◉10月5日・19日㈭**10:30～15:00／翼のつどい→泉区南光台市民センター
**山形◉10月19日㈭**14:00～16:00／若年性認知症の人と家族のつどい→若宮病院
**埼玉◉10月14日㈯**11:00～14:30／若年のつどい深谷→深谷市フラワーヴィラ
**神奈川◉10月21日㈯**11:00～15:30／若年認知症よこすかのつどい→横須賀市立総合福祉会館5階
**富山◉10月11日㈬**13:30～15:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ
**岐阜◉10月22日㈰**11:00～14:00／若年のつどい→岐阜市・アルト介護センター長良
**愛知◉10月28日㈯**13:30～16:00／若年本人・家族「元気かい」→東海市しあわせ村
**鳥取◉10月28日㈯**11:00～15:00／東部にっこりの会→コモン吉方温泉
**広島◉10月14日㈯**11:00～15:30／陽溜まりの会広島→紅葉狩り（三滝めぐり）
**福岡◉10月4日㈬**10:00～12:30／あまやどりの会→福岡市市民福祉プラザ602号室
**大分◉10月7日㈯**13:30～15:30／若年認知症の家族のつどい→大分県社会福祉介護研修センター

老いてなお健康に

# 老健局の風

# 改定新オレンジプランを推進

田中規倫（たなか のりみち）
厚生労働省老健局総務課
認知症施策推進室長

７月11日付けで老健局総務課認知症施策推進室長に着任しました。

## 私の福祉とのかかわり
### ― 地域福祉、子育て支援の経験を活かして

私は、平成11年に厚生省に入省し、19年目になりますが、実は高齢者福祉関係を担当するのは初めてです。

最近の業務での福祉との関わりは、平成22年度から25年度の三重県庁への出向まで遡ります。この時、地域福祉や子育て支援を担当しました。地域福祉施策では、市町や社会福祉法人等が行うコミュニティカフェなどの支え合いの拠点づくりに関わりました。

子育て支援では、特に、児童虐待防止対策において、子どもの命や健やかな育ちのためには、妊娠、出産、子育ての悩みや課題に直面する親が孤立することなく、母子保健などの仕組みを活かし、早期からアウトリーチも含めた関わりを持って、行政サービスや地域支援につながっていけるようにすることの大切さを学びました。必要な時には、一度親子が離れて環境を整えることも重要でした。

社会問題としての意味合いは全く異なりますが、家族内で抱えがちな課題に対してどう支援していくか、サービスや地域とつながってもらうか、という点では認知症施策と共通する点があったのではと思います。

## ご本人・ご家族の視点を重視
### ― 一緒に考えながら施策を進めたい

さて、認知症施策は、新オレンジプランを推進しています。本年７月には、数値目標の更新や更なる推進のためのプランの改定を行いました。今後は、それぞれの施策の状況を点検しながら、より効果的なものにしていかなければなりません。その際には、プラン全体を通しての柱である、ご家族やご本人の視点を重視する、ということをやっていきたいと思います。

施策のベースは、正しい理解を持って、認知症を身近なこととして考えられる人を社会に増やしていくことと思います。約900万人と養成が進んでいる認知症サポーターの取組を引き続き進めます。ご本人が参加し、その意見を政策などに活かしていくための本人ミーティングや、認知症カフェなどの取組の全国的な普及を図ります。就労や社会参加支援についても、労働部局とよく連携して取り組みたいと考えています。また、適時適切に、最適な場所で、医療・介護の提供を受けられるようにすることは、ご本人の安心とともに、ご家族の安心にもつながります。このため、医療と介護の連携を進めます。

認知症になっても、認知症とともに、より良く生きていけるための環境づくりのために、皆さんと一緒に考えながら、取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いします。

## 事務局 ほっとコーナー

９月は世界アルツハイマー月間。本部事務局や各支部では講演会、街頭行動、ライトアップなどが行われ、いつもより「思いがひとつになる」月だと感じています。

私ごとですが、９月10日が結婚記念日で24年目に入ります。今年も夫婦そろって健康にこの日を迎えられたと感慨深くなる特別な月でもあります。

さて本部事務局は新体制になり、３ヵ月がたちました。最少年齢が41歳で、決して若いとは言えないチームですが、鈴木代表のもと、笑いの絶えない雰囲気の中で、この多数のイベントにもフレッシュな気持ちで取り組んでいます。（事務局　森浦真理）

## 〈理事＆本部事務局活動・業務日誌〉 2017.8

●理事・本部活動

３日 常任理事会／４日 財政検討会議／４日、23日 厚労省社保審介護給付費分科会（東京）田部井㊐／６日 本部電話相談員研修会／18日 会報編集会議／20日 杉山孝博Dr.㊐理解と援助講座長野会場／26日、27日 理事会

－文書等発受－

２日、９日、17日、18日、23日、30日 連絡 支部「事務連絡」㊍／10日 会報 支部 会員 ぽ～れぽ～れ445協力：京都府支部㊍

# 会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188
Eメール office@alzheimer.or.jp

## 終末期医療の専門家

●千葉県　Aさん　60歳代　男性

アルツハイマー型認知症だった母が亡くなり、３年です。15年ほどの介護でしたが、辛かったのは介護そのものより、周囲の無理解と、終末期を迎え、医療を中止することを決定しなければならない時でした。

感染症などで抗生剤を使っても、副作用の方が強くなっていきます。医療者は延命を優先しがちですが、本人は辛いばかりです。治療を中止する適切な時期をアドバイスできる終末期医療の専門家を育成することが急務です。

## 介護中のみなさんへ

●兵庫県　Bさん　60歳代　女性

私は昨年秋に胃の痛みで受診したら胃がんでした。手術を受け、今は大丈夫ですが、胃がんが１㎝になるまでに十数年かかります。母の介護と重なる時期です。自分が健康だと思って頑張りすぎたかもしれないし、検診もさぼっていました。

介護中の皆さん、自分の身体を大切にしてください。一人で頑張らないで、人に頼り、サービスを利用してください。そして検診も受けて、早期発見・早期治療なさいますように。

皆様の健康をお祈りしています。

## 人手不足の現場

●岡山県　Cさん　40歳代　女性

元介護家族です。祖母の介護をきっかけに地元に戻り、障がい者福祉から高齢者福祉に転職をしました。５年のうち、３つ目の転職です。頑張れば頑張るほど、まかされる仕事は増えますが、人手不足のため満足な介護は提供できていません。

私を含め、心身を病んで辞めていく人の多い現場です。理想論、根性論ではどうにもならないところまできていると感じています。「家族の会」で勉強をさせていただきながら、介護される側も、する側もより幸せになれますよう取り組んでまいります。

## サービスを利用したいが…

●埼玉県　Dさん　60歳代　男性

50歳代の妻は４年ぐらい前から症状があり、２年ほど前に診断を受けました。若年性アルツハイマー型認知症の情報や対応方法、利用できるサービスなどについて知りたく、また悩みごとの共有や軽減が少しでもできればと思い、「家族の会」に入会致しました。

妻に家事全般に関わってもらいたいが、どのようにしたらうまく関わってもらえるかわからない。

私が仕事をしないと、生活ができなくなるので、妻にデイサービスやヘルパーなどの介護サービスを利用してもらいたいが、同意してもらう方法がみつからない。

## 老々介護の毎日

●大分県　Eさん　80歳代　女性

主人は私より２歳年上で２人とも80歳代、老々介護です。夫は認知症と診断されて15年になります。小規模多機能型のデイサービスに行っております。毎週日曜日だけショートに預けています。私が元気な間は、デイサービスを使いながら家で介護したいと思っています。

徘徊、暴力を乗り越えて、今は借りてきた猫のようにおとなしく、もちろん私もわからず、言葉も出ません。自分で食べることもできません。オムツ替え、食事介助は大変ですが、私は主人の介護を苦にせず、楽しむことにしています。毎朝ベットから起こすのが大変ですが、起きてくれてありがとう、お利口さんとハグしてます。

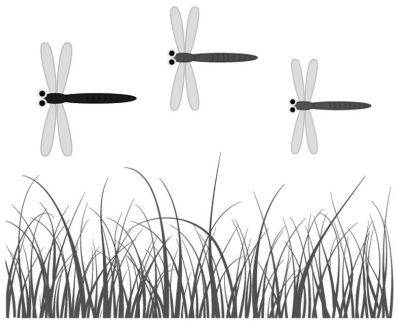
「幼な児に　なりたる夫に　ハグをして　演技する我　迷女優なり…」。今の心境です。

## 介護離職したので経済面が不安

●新潟県　Fさん　40歳代　女性

両親２人を在宅で介護しています。自分の将来も心配ですが、両親２人の介護費用が心配なのです。私には兄がいますが、兄には家庭があり、難しいのかなと思うのです。私が働いて両親の介護や入院の費用を捻出すればいいのですが、介護と仕事の両立は難しく、働いても長続きせず結局、介護離職。また仕事を始めようと思っても、ブランクが長すぎて採用されず悩んでいます。

両親２人とも病院で受診しています。担当医師からは「娘さん自身の身体も大切にして休みなさい」と言われますが、なかなか休むことができず…。介護が辛すぎて、いっそ無理心中か、私だけ死のうか…、そんなことばかり毎日考えています。



## 仲間に出会い救われた

●栃木県　Gさん　60歳代　女性

夫は60歳代、10年前に若年性アルツハイマー型認知症を発症し、2016年に「家族の会」に入会しました。いたってゆっくりの進み方だったのですが、ここ３年ぐらい前から病気の辛さと悲しみに夫婦して苦しんでいましたが、オレンジサロンで仲間と出会い、救われました。医療も大切ですが、仲間から聞く経験や対応の仕方がどんなに貴重で心強いか。夫は退職後でしたが、若い方の発症は、子どもの進路など、非常に心が痛みます。この会を苦しんでいる家族にぜひ知ってほしいと願います。会報も楽しみに読んでいます。

## 忘れたことを思い出すように

●長崎県　Hさん　70歳代　男性

60歳代の妻は、今年２月にアルツハイマー型認知症と診断されました。やっと本人も病気を認め、これ以上進まないように、忘れたことなどを思い出すように、レシピ本を見ながら料理している。同じようなメニューだが、作れるようになったことが嬉しいようで、最近は落ち着いている。

病気だから、デイサービスに行ったり、講座を受けたり、習いごとをしたりすることがいいと思うのですが、大勢の中に入ることが苦手だった妻なので、今はしばらく、したいようにさせたいと思っています。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。